

平成28年度 農業青年組織等活動活性化事業(地域青年農業者等グループ活動活性化助成)

事業主体名 飛翔クラブ

1 目的

始良地域は生産地と消費地が近在しており、地域内には農産物直売所も多く、地産地消の取り組みが積極的に行われている。

クラブ員は茶、有機野菜の青年が7割を占めており、現在、クラブ員が抱えている主な課題として、茶においては農閑期での所得確保、有機野菜においては無化学肥料で栽培可能な新規品目の探索などが挙げられる。課題解決に向けて、クラブ内で事前検討した結果、グループ活動課題として「ばれいしょ(多様な品種、有機栽培)の地産地消」に取り組みたいとの声が挙がっており、この活動を通じて、組織活動の活性化や地域農業の振興に寄与する。



栽培計画検討

2 実施状況(主要なものを選定して記載してください)

(1) ばれいしょ栽培検討の実施

地区内のほ場を借り上げばれいしょ栽培を行った。

○品種、栽培計画検討

栽培を行うにあたり、植付品種の検討や栽培検討を行った。作付け品種について、いくつか候補品種をあげて購入先に問い合わせたが、種芋が少なく、また、秋植えに適した品種も少なかったため、「ニシユタカ」での栽培を行った。

○栽培検討

施肥、堆肥施用後、10月7日に植付けを行った。

11月にかけ、順調に生育していき、11月17日に栽培状況検討を行った。11月下旬になり、降霜により上葉が被害を受けた。

2月に収穫調査について検討し、3月7日に収穫を行い、収量調査を行った。収量や階級構成、外観などについて調査した。



収量調査

	2S以下 ~50g	S 50~150g	M 150~300g	L以上 300g~
重量割合	54.2%	43.0%	2.8%	0.0%

10aあたり収量 1,188kg

(2) 消費者志向の把握

収穫したばれいしょを洗浄、選別、パッケージして、地区内の直売所であるじょうもん市場で消費者アンケート及び販売を実施した。

アンケートについては購入者を中心に実施した。33名実施し、使用頻度、階級、価格、重視点、量目、使用方法等について聞き取りを行った。

500g150円で販売していたが、200円との意見も多かった。

買うときの重視点としては、産地を見てとの意見が多く、ばれいしょ産地のものや地元産のものとの意見があった。次に品種や安心・安全などの意見も多く、有機栽培やGAP等の必要性が感じられた。

量目は500g程度が良いとの意見が多かった。

使用方法は煮物、サラダが多く、よく使う品種はメークイン、男爵が多かった。



消費者アンケート調査

3 今後の課題、取り組み

植付時期が遅く、霜の被害が大きかった。植付時期を早くし、収量の確保に努める。

品種についても休眠性により、秋植えの品種は少なく、春植え品種について検討が必要である。